

市民協働センター「にょり」

誰もが安心して暮らせる地域に……。社会的に弱い立場の人へ見守りや手助けを行う団体があります。地域の特性や対象によって関わり方は多様で、今回は2つの取り組みを紹介します。

北郷里子どもの居場所つくる会の会

北郷里地区在住の女性4人が同地区内で運営する子ども食堂「こどもの居場所まんま」は、平成27年から月に一度開催しています。地域の小中高生ら毎回約30人が集まり、宿題や遊び、食事をして過ごし、今ではすっかり地元に着。住民から食材の支援を受けるなどの協力も得ています。

現在は学年別に週を変えて開催し、新型コロナウイルス感染拡大を防ぎつつ継続。

さらに今後、国の子育て支援策のひとつである「トワイライトステイ(夜間養護等)」を始めよう準備を進めています。これは、保護者が仕事やその他の理由によって夜間の養育が困難な場合などに子どもを預かり、家庭学習のサポートや食事、入浴などを提供するサービスです。

同会では、市や社会福祉協議会などと連携し、支援が必要だと判断した子どもを対象に、少人数制で取り組む方針。昼夜を問わず子どもが安心できる場づくりを考えています。

こほく地域づくり協議会

市には「避難支援・見守り支えあい制度」があります。日常生活をはじめ災害避難時に手助けが必要な独居高齢者やしょうがいのある人などをあらかじめ把握し、地域全体で見守り支える仕組みです。

こほく地域づくり協議会では、この制度をより地域に波及させようと平成24年から熱心に啓発に取り組んでいます。そのひとつが毎月1日、15日の「見守り支えあいデー」です。現在同地域で制度に登録する94人に加え、未登録でも支援が必要と思われる人を対象に、家の明かりが点いているかなどを周辺住民が意識的に確認する日として設定。さらに各自治会をリレーする形で啓発看板を設置し、自治会長が毎年必ず対象者の自宅を訪問するようにしています。

取組みの合言葉は「向こう三軒両隣」。かつて近所同士で助け合ってきたコミュニティの形を制度に沿わせて継承し、「いつものおつきあいがもしもに生きる」ように地域全体の意識を高めています。



▲看板をリレー設置し、意識づけの機会としている
(写真：こほく地域づくり協議会提供)

こんな活動してます！

余呉城郭研究会

織田信長の後継をめぐる羽柴秀吉と柴田勝家が争った「賤ヶ岳合戦」。名前に掲げられている賤ヶ岳が主戦場だと思われがちですが、「由上山砦」や「大岩山砦」など木之本・余呉地域に両軍の砦が築かれ、広域で戦いが繰り広げられました。

余呉城郭研究会は、地域の史跡を改めて学ぼうと平成21年に発足。現在地元住民や歴史愛好家など約60人が会員で、史跡の現地勉強会を月1回程度開催しつつ、登山道の整備にも取り組んでいます。また、講演会も定期的開催し、コロナ禍の中では公開録画を取り入れながら発信。今後は地元の観光ガイド協会や歴史愛好会との連携もめざしています。

現地勉強会・講演会は会員ではなくても参加できます。七本槍が活躍し、天下分け目ともいわれた戦いの魅力を再発見してみてください。



▲講演は次回令和3年1月「明智光秀と湖北の城」を予定。現地勉強会を含め詳しくは下記まで。

問 ウッディパル余呉(☎86-4145)



◇ながはま市民協働センター

☎65-6525 Mail: katsudou@city.nagahama.lg.jp 休所日 火曜日

◇北部サテライトセンター きのもと交遊館

〒526-0425 長浜市木之本町1118 開所日 水・日曜日